

変化の時代 非鉄グループ 会社の挑戦 ④

日本精鋳グループ

日本アトマイズ加工

最高益を記録。一方、そ 社に比べ決して規模は大の反動減と電力費をはじきくれないものの、中小企 業ならではの少量バッチめとするコスト増などで

での対応力と、水アトマイズ法専業として培った技術力で差別化を図る。生産拠点は野田本社工場（千葉県野田市）とつくば工場（茨城県牛久市）の2工場体制。当初は野田本社工場の機械部品向け生産工程のみだった

今回のつくば工場の増築後も、約3分の1の敷地が更地であり、今後の生産能力増強の余地を残している。電子部品向けは今後、製品および製法開発を進めて車載関連へ用途を広げたい考えで、さらなる事業規模拡大に意欲的。目下進めるつくば工場の鉄系合金粉生産工程の増強は雇用創出にもつながり、地域活性化に寄与したいとする。

鉄合金粉の生産強化、市場開拓

車載関連向け販路拡大にも意欲

が、2000年

に現親会社の日本精鋳がグループ化したのを契機に、電子部品向けへ経営資源を投下。12年に電子部品向けの新設したほか、20年に分級工程の増築を実施。来

（山口 大智）

アンチモン製品メーカー・日本精鋳において、金属粉末製造事業でグループの収益に貢献する日本アトマイズ加工（本社・千葉県野田市、社長・坂東二郎氏）。電子部品や機械部品向けに、銅合金粉、貴金属粉や鉄系合金粉等を生産・販売する。コロナ禍で急速に加速するデジタル化を背景「水アトマイズ法」を専業に、2021年度は過去



茨城県牛久市のつくば工場

前年度は税引後純損失を計上した。足元の需給環境は芳しくないが、電子部品向け金属粉末の中長期的な市場拡大に向け、鉄系合金粉の生産増強を進めている。粉末形状を球形状や異形状にコントロールでき、合金粉が作りやすい

非鉄金属業界には幅広い分野で活躍するグループ会社を抱える企業が多い。脱炭素社会や循環型社会の進展など社会構造の変化が潮流となりつつある中、独自の技術や存在感で輝きを見せるグループ会社に焦点を当てる。